

太古より継ぐ 生命の物語。



やんばるの森

国内最大級の亜熱帯照葉樹林が広がるやんばるは、ここにしか生息・生育していない動植物が豊富に存在する、世界的にも貴重な自然の宝庫。琉球列島は大陸と分離や結合を繰り返してきたため、取り残された生き物たちが何万年もの長い年月をかけ、それぞれ固有の種へと進化を遂げたのです。

大石林山は国立公園として指定された「やんばる国立公園」の特別保護地区内にあります。



始原の山を歩く



2億5千万年前の古生代に海の中で形成された石灰岩が、地殻変動によって地表に現れてきた大石林山。さらに数百万年という長い年月のあいだ雨や風などに溶食・侵食され、切り立った奇岩が林立する独特の風景が作りあげられました。沖縄本島が形を成しはじめる時からここに在る山。雨水やバクテリアのわずかな作用が石灰岩を溶食していく様子は、現在も山のいたるところで見ることができます。

大石林山は世界最北端に位置する熱帯カルスト地形。ドリーネ（すり鉢状のくぼ地）、タワーカルスト（タワー状の石灰岩台地）、ピナクル（塔状の石灰岩丘）、カレン（岩肌のうろこ状の溝）などカルストのさまざまな特徴が豊富に存在しています。



ソテツ群落

彼方に国成る



美ら海展望台ステージ



辺戸岬から望む大石林山

安須杜とよばれる四連の岩山にある大石林山。頂上からは水平線の向こうに与論島や沖永良部島が望めます。逆もまた然り、はるか彼方からでも望めるこの雄大な岩山は、人々が海を越え新天地を目指すとき、彼らのしるべとなりました。

今も40を超える御願所（拝所）がある安須杜。17世紀に編集された琉球最初の歴史書『中山世鑑』には、祖神アマミキヨによって最初に創られた聖地と記されています。また、12～17世紀に琉球王府がまとめた沖縄最古の歌謡集『おもろさうし』には、国王の命で安須杜の湧水が王家の長寿を祈る若水として用いられたと詠われています。森の中には猪垣や家畜小屋跡と思われる石造物が多数残存しています。また、山のふもとに縄文時代から弥生時代の集落跡「宇佐浜遺跡」があることから有史以前の昔、人々がこの地に辿りつき生活していたのではないかと推測されます。



ホントウアカヒゲ (国指定天然記念物)



イルカンダ (3月～4月)



鍋池



アガリメー



猪垣



家畜小屋跡